

文章の構成や展開、表現の仕方について 自分の考えを持つことができる生徒の育成

—読みの視点の提示と学習活動の工夫を通して—

特別研修員 国語 新井晶子(中学校教諭)

生徒の実態

- ・ 説明文は何が書かれてあるのか、分かりにくい。
- ・ 文章構成や表現を意識して読むことは少ない。
- ・ 自分の考えを持つのは難しい。

教師の願い

- ・ 文章全体の内容を読み取らせたい。
- ・ 文章構成や表現の役割を捉えさせたい。
- ・ 自分なりの考えを持たせたい。

実践：中学校第2学年 2学期 「水の山 富士山」(教育出版)

手立て① 学習活動の工夫

文章全体を読み取り、内容の大体と筆者の伝えたいことを捉える活動(個人)

キーワードを使って段落の要点をまとめ、文章構成表を作り、文章全体の内容や筆者の考えを捉える。

文章の構成や展開、表現の仕方を捉える活動(個人)

注目ポイントを参考にしたり、文章構成表を見たりしながら筆者の表現の工夫を見付ける。

意見を交流し、友達のことを知り、自分の考えを持つ活動(グループ)

注目ポイントで得た視点を基に、見つけた表現の工夫について交流し、自分の考えを確かなものにする。



手立て② 読みの視点の提示

「キーワード」を基に読む

題名に関わる言葉や繰り返し出てくる言葉を基に文章を読む。

「注目ポイント」で表現の仕方に目を向ける

接続詞の使い方、図や写真の役割、文章の書き出しなど、どこに目を向ければよいか、視点をヒントに工夫を見付ける。

ワークシートの一部

文章の内容や要旨を捉え、文章構成や表現の仕方について自分の考えを持つ生徒

成果

- どのような言葉が「キーワード」であるかを知り、それをもとに文章を読み進めることによって、内容の大体を読み取ることができるようになった。
- 「注目ポイント」によって文章構成や表現の仕方に注目することにより、文章内容とその表現方法には密接な関係があることに気づき、自分の考えを持つことができた。

課題

- ◆ 一連の学習活動で身に付けた視点を基に、さらに筆者の意図やその効果について考えを深められるような支援が必要である。